

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズサポートこころ				公表日	令和7年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	利用児童の障害程度で足りていると感じる場合と足りていないと感じる部分がある。10名程度だとちょうど良い広さ。	あえてワンフロアとしている。多動傾向の児童も安心して過ごすことができるようにパーティション等での工夫も必要だと感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	3	利用児童の特性に応じて足りていると感じる場合と足りていないと感じる時がある。	人員配置基準以上に配置しているが、児童の特性に応じて増員も検討している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	おおむね快適だと思う。	ワンフロアの為に必要に応じてパーティションを取り入れる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		おおむね快適だと思う。	ワンフロアの為に必要に応じてパーティションを取り入れる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	スタッフルーム・相談室・静養室を状況に応じて使い分けている。	支援室にダンボール等で製作した個室を検討中。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	5	PDCAサイクル(目標設定と振り返り)を知っているが意識したことがない。	開所1年目なので、これから広く職員が参画できるように業務改善を行う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	4	行っている。	グループLINEにて共有しているが興味関心がある職員とそうでない職員の差があるため研修を強化していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3	グループLINEで共有しているが、職員がシフト制なのでディスカッションが難しい。	グループLINEにて共有しているが興味関心がある職員とそうでない職員の差があるため研修を強化していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	9	第三者評価を行っていない。	第三者評価を行っていない。必要に応じて検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	3	代表者が小城市の研修会に定期的に参加している。	代表者が小城市の研修会での内容を職員に報告しているが、今後職員も参加できる体制を整える。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	3	毎月予定表でお知らせしている。	Instagramで毎月予定表を紹介しているが今後はHPも検討している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	3	Instagramで毎月予定表を紹介しているが今後はHPも検討している。	アセスメントはデイロボで保護者様から直接入力していただいているが、紙ベースがあればなお良いので印刷を行う。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	3	定期的に検討会を開催している。	常勤職員・パートタイム職員は定期的に検討会に参加しているが、勤務日数が少ない職員は事後報告の場合が多い為、共通LINEの強化を図る。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	3	共有している。	クラウドの他に紙ベースで誰でも確認できるように変更する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	3	症例検討会に参加している。	代表者が小城市の研修会での内容を職員に報告しているが、今後職員も参加できる体制を整える。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	3	ご家族の皆様、職員が戸惑うことがないように分かりやすい言葉で支援計画を作成している。	2年目は各関係機関と連携をさらに強化する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	チームで行い、難しい立案は都度変更している。	食育ランチ会の内容が毎回回っているので今後は外食体験を検討中。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		工夫している。活動プログラムは利用児童の意見を取り入れている。	食育ランチ会の内容が毎回似ているので今後は外食体験を検討中。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	2	個別活動・小集団活動を組み合わせている。公園遊びは2~3人の小集団で外出している。	安全面を考慮し、外出時は児童もキッズサポートこころのユニフォームを検討中。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	3	共有LINEにて情報を共有している。排泄時間も都度共有LINEに記録している。	同じ児童でも毎日様子が異なる為、共有LINEにて情報を更新。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	共有LINEにて情報を共有している。支援中の写真・動画にて休みの職員にも共有している。	てんかん発作は必ず動画で記録し保護者様と共有する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	2	デイロボにて記録を行い、活動写真を添付している。	必要に応じて、排泄回数等の記録の強化。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	2	相談支援専門員とも連携を図りモニタリングを行っている。	セルフプラン児童には必要に応じて相談支援専門員の紹介を行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	児童発達支援管理責任者が参加している。	キッズサポートこころでサービス担当者会議を開催する場合は、保育士等の支援者も参加が望ましい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	2	各関係機関と連携して支援を行っている。	学校送迎時の引継ぎがなかった時には、必要に応じて学校に連絡を行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	3	各関係機関と連携して支援を行っている。	送迎時に情報共有を行う。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			各関係機関と連携して支援を行っている。	相談支援専門員と連携しながら情報提供と相互理解に努める。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		10	地域の児童発達支援センターにメールアドレスを登録しているが助言や研修の機会がなかった。	必要に応じて関係機関との連携を図る。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		10	認定こども園等の併用利用の為、地域の中で他のこどもと活動する機会がなかった。	必要に応じて関係機関との連携を図る。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		毎日支援中の様子を写記録のほかに、写真・動画にてお知らせしている。	写真が多い場合もある為、保護者様に写真の枚数等の確認を行う。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2	COCOカフェ(ママカフェ)を定期的に開催。	お互いに悩み事のためこみすぎないように定期的にCOCOカフェ(ママカフェ)を開催する。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	契約時に説明を行っている。支援プログラムは毎月の予定表にてお知らせしている。	運営規定の見直しを行った。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	1	LINEやデイロボ等で共有している。	LINEやデイロボ等で共有している。毎日決まった時間に確認を行う。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	1	同意を得ている。	電子サインの画面が小さく、印刷し再度サインをいただいた。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	1	行っている。	必要に応じて関係機関との連携を図る。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		COCOカフェ（ママカフェ）を定期的で開催。9月に親子ふれあいバス旅行を開催。きょうだい時の参加も可とした。	COCOカフェ（ママカフェ）、親子ふれあいバス旅行好評だった。毎年継続予定。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	1	迅速かつ適切に対応している。	「このように支援してほしい」等の要望はできる範囲で対応しているが、難しい場合は丁寧に説明し同意を得ている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		ほぼ毎日Instagramで日々の様子を発信している。	ほぼ毎日Instagramで日々の様子を発信しているが顔出しNG児童はモザイク処理をおこなっている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		十分留意している。	ほぼ毎日Instagramで日々の様子を発信しているが顔出しNG児童はモザイク処理をおこなっている。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		ほぼ毎日Instagramで日々の様子を発信しているが顔出しNG児童はモザイク処理をおこなっている。	ほぼ毎日Instagramで日々の様子を発信しているが顔出しNG児童はモザイク処理をおこなっている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5	事業所の行事に地域住民を招待する等のイベントがなかった。	機会があれば地域の行事に参加したい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	3	定期的に訓練を行っている。	訓練の様子はInstagramでお知らせしている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	2	定期的に訓練を行っている。	訓練の様子はInstagramでお知らせしている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		必ず確認している。てんかん発作等の場合、動画撮影し、発作時間を記録している。	欠伸発作等、分かりにくい発作は必ず動画記録し、受診時に主治医に確認依頼する。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		医師の指示書に基づく対応している。	定期的に食物アレルギーの児童の確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	2	送迎車に乗車時、必ず写真撮影し、その日の服装を確認し共有LINEにて情報共有を行う。	送迎車乗車・降車時簡単な記録をつけチェックする。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2	送迎車に乗車時、必ず写真撮影し、その日の服装を確認し共有LINEにて情報共有を行う。	送迎車乗車・降車時簡単な記録をつけチェックする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	2	共有LINEで情報共有をした後、書面で報告する場合もある。	毎回同じ内容のヒヤリハットが出てくるが、ヒヤリハットを提出することで再発防止の意識付けを図る。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	3	代表者が小城市の研修会に定期的に参加して報告した。	定期的に虐待研修・共有LINEにて意識付けを図る。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	3	つなぎ服（自分で簡単に着脱できない）も身体拘束にあたる為、保護者からの以来の場合は支援計画に記載する。	必要に応じて支援計画を更新する。	